

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・加藤 写真・後藤
山行番 NO.1947	
日 時 2021年10月06日(水) 晴れ	
山 域 日光・石裂山(おざくやま・880m・栃木百名山)	
コース 長泉町6:00-鹿沼IC-加蘇山神社発10:10-尾根11:47-月山12:01~29(昼食)-石裂山12:44-長い梯子13:10-東剣ノ峰13:14-奥ノ宮13:42-月山分岐14:11-加蘇山神社14:36-鹿沼-北陸道-那須IC-那須ロープウェイ駐車場16:30(泊)	
標高差 上り・下り 加蘇山社務所約300m~月山890m=約590m	
藪漕度 上り・下り なし	
難易度 非常に困難 困難 レやや困難 普通 やや易しい <u>レ易しい</u>	
<b>ハシゴ・クサリが多い、スリル満点の山</b>	
参加者 後藤、加藤、星、合谷=4名	

栃木県鹿沼市にあり「おざく信仰の山」で知られている。「おざくやま」とは絶対読めないだろう。未踏の山。

私は字のとおり「せきれつざん」と言ったら、「もう少し勉強してこい」とCLの一喝。だが、クサリあり、ハシゴありとかなりのアスレチックコースで登ってみると「おざくやま」より「せきれつざん」の名称の方がよっぽど相応しい山だと感じた。



加蘇山社務所



加蘇山神社

鹿沼ICを降りて道を1本通り越してしまい30分程のロスし、加蘇山神社社務所に到着。神社の趣は立派だが人気はなく寂れた感じ。手入れもされていないようだ。

正面に大きなカヤの木がたわわに実をつけ独特の香りを放っていた。実が足元にどっさりと落ちている。この香りが懐かしい！富士市の「毘沙門天祭」で有名なのが「タンキリ」だ。タンキリと言えばカヤの実。だが、現在はカヤの実が手に入らず「落花生」で代用されている。成長が遅いカヤの生産量はごく少量、とにかく貴重品という。

・・・材木としては将棋版や彫刻にも使われる超高級品で、樹脂が多くて炊くと虫除けになり、実

は実で美味しいし、実から出る油は料理に少量使うだけで胸焼けを抑えるという、何から何まで素晴らしい樹木。カヤの実を渋皮ごと 50 粒ほど砕き、800 g の水で半量に煮つめて一気に飲めば数時間で「虫」が下りるといわれています。古書でもカヤの実（ヒシ）は「目を明に陽を起す」と記されており、強壯長寿の仙薬とされています。また、コレステロールを除く作用もあり、その実の常食は高血圧の予防や治療によいとされ、腰痛や頻尿の改善に効果があります。・・・ネット



神社入り口に「コースは岩場が多く、滑落事故も起きているので、装備・服装を整え、十分注意して登山して下さい」の掲示板があった。直ぐ後に二人の男女が車から降りてきた。男性は半ズボンにスパッツ。車中で山を検索した合谷さんが「此処はヒルがいるそうです」と話していたので、その旨足元は大丈夫かと声を掛けたら、この近くの店で、ヒルがいる事を聞いたが、ヒル対策用の物は売ってなかったから仕方がないと言っていた。そりゃそうだ。

それにしても暑い！何だこの暑さは？この暑さでは絶対ヒルがいるぞ！丹沢では、大事な血を思いつき吸われ、丸々と太ったヒルが靴の中からはい出てきた時は、辺り一面につんざくような悲鳴を上げた。その後、スマホでヒルの生態を調べ、濃い目の塩スプレーを丹沢では必ず持ち歩いている。が、残念！！無念！今日は持参してこなかった～！

日中から登るのは身体が陽射しに慣れていないせいか何時も堪える。段取りを終えて出発。川沿いに続く道は、500m程歩くと「下の宮」があり其処が登山口になっていた。川沿いの山道は鎖でゲートがしてあり、加藤の「この道で大丈夫」の確認で橋を渡ってダートな山道を進む。

途中でCLが「どうもオカシイ」と道迷いに気が付き「下の宮」まで戻る。このあと、加藤はCLの信用がなくなった。「弘法も筆の誤り」「猿も木から落ちる」ブツブツ加藤の呟きが聞こえる。30分程のロス。後の2人も同じように道迷いしてきた。GPSで確認し鎖のゲートを越えてあらためて登山道を進む。しかし、道標がなく分かり難かったのも事実で不親切。

少し湿った山道で、ヒルがいないか目が点々と道の両脇を探る。足元がヒルに飛び付かれないようにポンポン跳ねる様な歩き方に変わり周りを見る余裕がない。落差3m程の竜ヶ滝。其の直ぐ上に東屋があり、先で右が峰続きの月山、左が石裂山と二手に分かれていた。

時計周りが多いようだが、ここはCL。皆と同じ方向で歩く筈がない。勿論私達は逆方向の月山を目指す。尾根に上がり込むまでの小さな岩場や樹林帯の荒れたヤセ尾根をジグザグに登っていく。





クサリ・ハシゴ連続

汗が滴り落ちて化粧もへったくれもない。ヒルの心配も何処へやら。タオルで汗を拭きふき只管（ひたすら）登る。尾根に出てやっと涼しい風が出てきた。だがまだまだ急な登りが続く。所々に、シロヤシオの木が目立ち、さすが栃木の皇室所？そして物凄くお腹が空いた。もう休みた〜いの限界で月山頂上に着いた。

展望があったのか、なかったのか定かではない。とにかくお腹が空いて腹ごしらえが先だった。やっと満たされてホッとしたのも束の間、直ぐに出発。石裂山の標識に従って歩き始めたが、まともCLの「待た」がかかった。道の確認に標識まで戻る。そして進む。

山を回り込む道と、トラバースで直に下る道とあり、結果、道は先で合流していたが、「加藤は信用できない」のと、そしてCL曰く、「道の確認は初めに戻るが基本」だと先を黙々歩く。



月山

（編者注・スマホ地図を例えれば、2万5千図でなく5万図で見ると詳細が分からない。前述の縦走路から外れたピークをピストンする場合、5万図だとピストン部分が一直線に見えるので間違い



易い。地形を見てオカシイと思ったら、拡大して確認が必要だ)

石裂山までは、岩場の急な下りもあったり、張り出した木の根が見事に絡み合うヤセ尾根道はタコ足を想像したりでなかなか楽しい。この頃には涼しい感じがあり汗も何時しか引っ込んだ！石裂山からは、案内板のとおり長いハシゴの連続だ。

もう終わりかな？と思うと先にまたまた続く。然し、しっかり取り付けられてあり何も心配がない。ただ、長過ぎて息が切れるだけだ。長いハシゴでハアハア！ふうふう！ロープを頼りに岩を下るは緊張を繰り返す。



長い梯子（まだ上に続いている）





奥の宮

皆の息遣いが荒い。標高が低いのに何とキツイ山だろうと思った。ハシゴは下るより上る方が安全だ。この山の左周りでは、ハシゴの直登の長い下りが多い。よって、CLの反時計回りの判断は正しかった！と私は思った。

途中に鳥居のある岩屋の「奥の宮」があった。CLのみハシゴを上って確認。この下の岩場は、やたら太いクサリが続き、掴みにくく閉口。太ければイイというものではない。

更に栃木県天然記念物の「千年桂」に出会う。見事だ！大木だが、ただ大木ではなく何本にも分かれて一塊でスクッと空にのびている。陽当たりの悪い沢のような場所で、よく流されずに此処まで大きくなったと感心する。自然はやっぱり凄い！

この山は標高こそ低いが、自然の驚異を「これでもか？」と見せつけてくれる。アスレチックコース的な山と言ってしまうえば、ただ単に危険な個所を楽しむことで終わってしまうけれど、其処此処に自然が織りなす美が点在していた。

切り立ったヤセ尾根、張り出した木の根の美しさ、岩壁、岩屋、千本桂等等。ヒルに出会わなかったのが良かったのか。魅力満載のこの山にバンザイだ。心残る山であった。

#### その他の記述（後藤）

1. 久しぶりの二連荘（ちゃん）の山。登山開始が遅くなるのが、玉に瑕（きず）。
2. ハシゴは、スッテップが紙ヤスリのような滑り止め。取っ手は、楕円形でとても握り易い形状



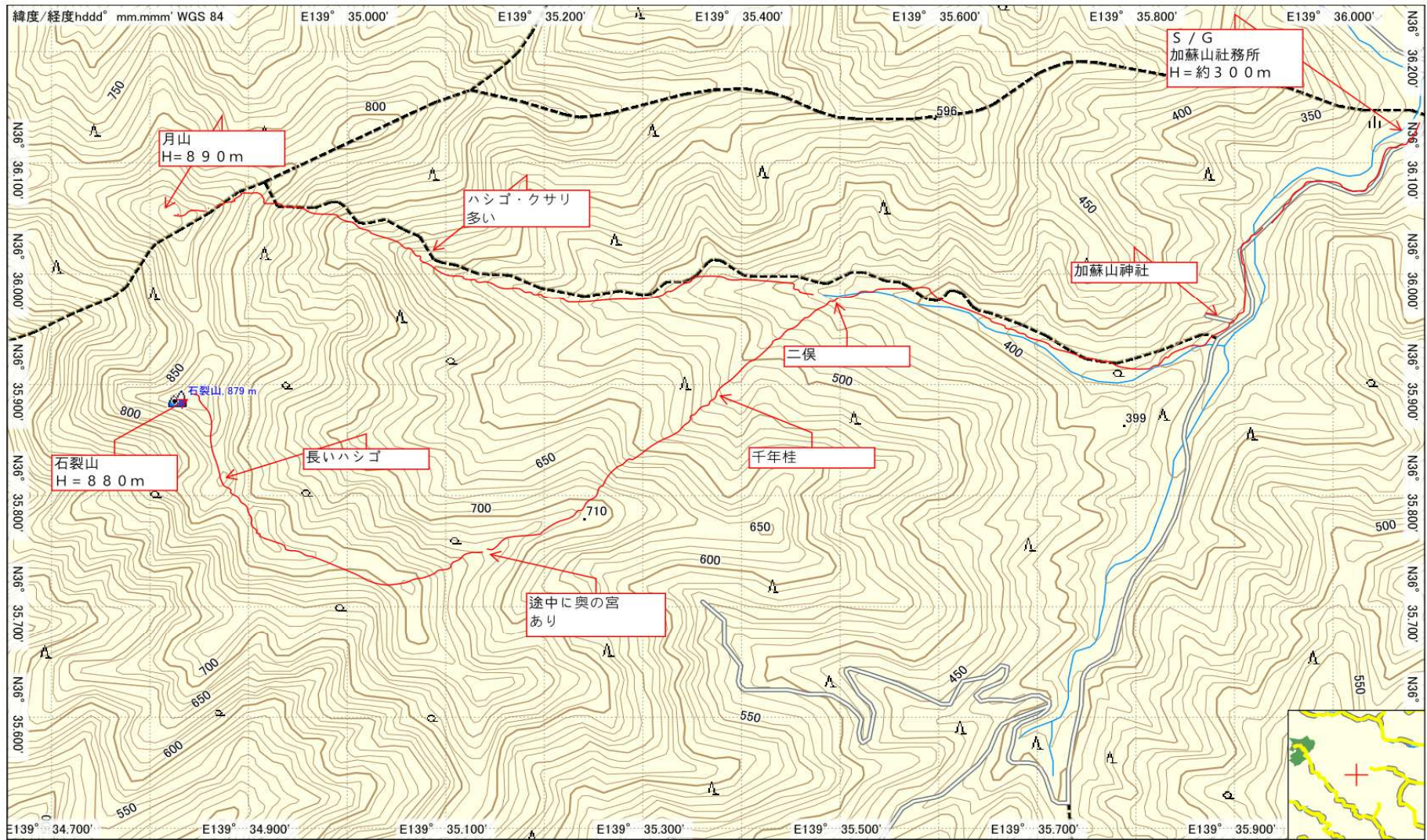
だった。クサリは酷かったが、ハシゴは良いデザインだった。

3. 周辺は岩山が多い。鹿沼 I C 近くの岩山（猿岩・328m）が平野からスッと佇立し、異彩を放っていた。次回、上りたいね。



栃木県天然記念物・千本柱





Japan Topo 10M Plus V3  
 Canvas/Maple Co., Ltd 2014  
 Garmin Corporation 1995-2014

2021/10/09 10:27:30

GARMIN